

2013年度コーナーを振り返って No. 2

**表現コーナー：**園庭では4月からたくさんの子どもたちが集まり、ダンスをしたり、リズムにあわせて楽器を鳴らしたりと楽しむ姿が見られました。ふれあいひろばで踊った“カラフルNO. 1”は小さい子から大きい子までみんなが大好きで、「もう1回！」と何度も笑顔で踊っている姿がありました。

太陽のお部屋には、「大型積み木で迷路を作るんだ」「今日は、〇〇型のドミノに挑戦するんだ♪」などと目的を持って遊びに来る子が多く、はじめは一人で遊んでいた子も同じ空間で遊んでいるうちにおもちゃの貸し借りをしたりしながら、一緒に楽しく遊ぶ姿が見られるようになってきています。

また、成道会をきっかけに始まった「どうぞのいす」の劇あそびではちゅうりっぷぐみ・こすもすぐみさんもなりた役の衣装を身に付けて、大きい子たちに教えてもらいながら楽しんでいました。劇を始めたばかりの頃は、緊張していたり、恥ずかしくなってしまう姿もありましたが、次第に緊張もなくなり、劇の始まる前に「どうぞのいす」の絵本を読むことで、イメージを膨らませて自分たちの言葉でやりとりを楽しみながら演じられるようになりました。舞台に出ている子どもたちだけでなく、楽器で盛り上げてくれる子やお客さんになる子など自分がやりたいことを見つけてみんなで劇遊びを楽しみました。



自慢大会で先生方の自慢を見てすみれさんが「その姿を見てたんぼぼさん・さくらさんが「〇段を跳びたい！」「〇〇ができるようになりたい！」と毎日目標を持って跳び箱やマット運動(前転・後転・側転など)にチャレンジしてくる姿がありました。「手はもっと前に置くといいよ」「もうちょっとだね！」と子どもたち同士でアドバイスをしたり、励ましあって取り組んでいました。これからもみんなで一緒にする楽しさや協力して作り上げることの喜びを味わったり、目標を持ってやり遂げるなどの経験を通してさらに自信に繋がっていった欲しいと思っています。(田村)



**クッキングコーナー：**桜の花を見ながら「マシュマロ団子」でお花見を楽しんだり、ヨモギ団子を作って味わった4月。5月になると真っ赤になったさくらんぼを1粒ずつ大切に採りリッツにのせたり、パフェにして味わいました。梅雨が明けると梅の季節。みんなで収穫し、梅ジュースや梅ジャム、梅干し作りに挑戦。暑さが増してくるとかき氷屋さんが開店！連日のかき氷を通して、食べ終わったカップは自分で洗うことがしっかり身に付きました。



2学期に入ると砂場の上には美味しく色づいたブドウがたわわに実り、毎日少しずつ収穫して皆で味わいました。野菜は少し不作でしたが、ふで柿、栗、リンゴ、アケビ、サツマイモと実りの秋を迎えクッキングコーナーのメニューも色とりどり。クッキングパーティーを経験し、包丁の使い方も上手になってきた子どもたちです。

子ども同士で、「ねこの手がいいんだよね」と教える子、「包丁上手に使えるよ！」と得意げな子。ちゅうりっぷぐみ、こすもすぐみさんに大きい子が後ろから手を添えてあげる心温まる場面にも出会いました。秋の終わりにはたくさん実った渋柿で干し柿作りに挑戦。徐々にしわしわに小さくなっていく柿を不思議そうに眺める子、「いつになったら食べられる？」と待ち遠しい子、とそれぞれに興味を示していました。出来上がった干し柿はどの子も「おいしいね～」と冬ならではの経験を楽しみました。七草粥作り、鏡開きとお正月の余韻を楽しむ事から始まった3学期。皆で揃ったお餅もどんなふうか食べて相談して磯辺やきなこ、餅ピザにお汁粉とおいしくいただきました。又、寒い日には温かいものもいいよねとスープを作って皆で温まりました。熱いスープを入れる時やふるまう時に「熱いから気を付けてね」と気遣う言葉をかけたり、「食べに来られない先生たちに届けてくる！」と優しい姿もたくさん見られました。作って食べるだけでなく、周りへの思いやりの気持ちも育ってきたように思います。(間手原)



**自然のコーナー：**自然いっぱいの子どものもりで、春はアレンジメント作り、椿・八重桜・あじさいのネックレスや髪飾り作り、草花クッキングが盛り上がりました。子どもたちは、園庭の草花を包丁で切ったり、泡立て器で混ぜたり、すりこ木棒でつぶしたり、おいそな料理をたくさん夢中になって作っていました。夏は、ザリガニ釣り、のうぜんかづらの髪飾り作り、そして一番人気は、虫取りでした。暑い中生き物と触れ合い、沢山の発見をしました。秋は、沢山のドングリ拾い、クルミ洗い、そして、木の実やひまわりの種を使って、オブジェや動物をイメージを持って作り、沢山の自然を使ったモノ作りをしました。冬にも、木の実などを使ってリースやオーナメント、松ぼっくりのソリー作り、又寒い日には氷のケーキやオブジェ、カーテンなどいろいろな氷作りをしました。たくさんの自然の不思議さ、すごさを肌で感じ、きれいな自然の芸術に触れることができました。

また、年間を通して、たけのこ、さくらんぼ、うめ、ブルーベリー、ひめりんご、プラム、くり、銀杏、なつみかん、きんかんなど、たくさんの味覚狩りをし、味わったり、クッキングしたり、多くの感動を体験し、畑では夏野菜の生長を楽しみに育て、収穫しました。残念ながら今年は冬野菜が不作でまた種から目が出るのを楽しみにしていた子ども達はがっかりでしたが、毎年同じように育たない事を実を持って知りました。このような中でも、自然に対する感謝の気持ちも育ってきたり、たくさんの自然との触れ合いで、感性豊かで思いやりのある子どもたちになってきました。この幼い時の自然との楽しかった触れ合い、感動したこと、発見してすごい！と思ったことなど、きっと大人になっても覚えていることでしょう！



こんなに美しい四季があるのに、幼児期に自然との体験をしなければ一生経験できないくらい、忙しい国になってきている日本。こどものもりでの自然いっぱいの体験は、子どもたちの成長の糧になっていくことでしょう。(圭恵)



**外あそびコーナー：**外あそびのコーナーでは、暑い日や寒い日でも身体を目一杯動かして元気に遊ぶ姿が見られました。こいのぼりを園庭にみんなであげ、そこに赤ちゃんこいのぼりを作って仲間入りさせたり、暑い夏の日には色水遊びやシャボン玉を作って涼みながらゆったりと過ごしたり、お正月には羽根つき・こま・竹馬・缶ぼっくりを楽しみ、雪の降ったあとはかまくらや雪だるまを作りながら、身体全体で季節を感じました。スタンプラリーごっこでは、お友だちとロープの電車に乗りながら文字に触れ、言葉を作る楽しさを味わい、かけっこやリレーでは走者・進行係共に子どもたちで行い、走ることも進めていくことも経験しました。転がしドッジボール・氷鬼など、ルールのある遊びでは、年長児が中心になり教え合いながら、ルールを理解し、守って楽しみました。7月からは年長児で“できたよのーど”が始まり、No.1をクリアしようと目標を立て、3月の卒園ぎりぎりまで、苦手なものでも何度も挑戦し、頑張る姿が見られました。No.1をクリアしNo.2に進んだ子も、できることを増やそうと毎日取り組んでいました。11月後半からは、マラソンで寒い中でも身体を動かし暖かくなること、またどんぐりやおはじきで周回を数える経験もしました。自分のマラソンカードを作り、走るごとに華やかになっていくカードを見て嬉しそうにしながら、1日に何十周も走ったりと、体力のついてきた子どもたちです。この一年間の子どもたちの成長をご家庭でも見ていただき、励まし、4月からのパワーとなることを願っています。(仁平・涌井)



各コーナーでは季節に合わせ、子どもたちの興味関心を引き出せるように、それぞれの担当と全スタッフが打ち合わせをして子どもたちが自己充実できるように工夫してきました。来年も「こどものもり」ならではのコーナーの環境づくりに励んでいきます。応援をよろしく！